

|  |   |       |      |
|--|---|-------|------|
| クラス番号  | 634   | 担当教員名 | 末盛 慶 |
| テーマ  | 社会学的な視点を用いて、家族・性・貧困などの諸現象を見る力を養う  |       |      |
| 著書・論文  | 「夫の家事遂行と妻の夫婦関係満足感－NSFH を用いた日米比較－」『人口問題研究』第 54 巻 3 号, 1998 年 (共著)            |       |      |
| 研究課題等  | 「夫の家事遂行および情緒的サポートと妻の夫婦関係満足感」『家族社会学研究』第 11 号, 1999 年                         |       |      |
|  | 「母親の就業は子どもに影響を与えるのか」『家族社会学研究』第 13 巻 2 号, 2002 年                             |       |      |
|  | 「中学生の子どもに対する母親の養育行動を規定するもの－「夫婦関係と親子関係のつながり」は本当か?－」『家庭教育研究所紀要』第 30 巻, 2008 年 |       |      |
| 「職場環境と男性のワーク・ライフ・バランス」『揺らぐ子育て基盤』松田茂樹他著, 勁草書房, 2010 年 |   |       |      |

## ゼミナール概要

キーワード：社会学、家族、子ども、ジェンダー、セクシュアリティ、貧困、社会調査

### 目的、内容、方法等：

本ゼミでは、社会学的な視点にもとづいて、家族、性、貧困などの社会現象を学んでいきます。ゼミのテーマとしては、大きくジェンダーと貧困の2つを考えています。より具体的には、ジェンダーに関する基本的議論、トランスジェンダー（性同一性障害など）をはじめとしたセクシュアリティ、貧困に関する基本的議論、そして子どもの貧困を扱う予定です。

### 授業計画：

3年生の前期は、上記のテーマに関する論文あるいはテキストにもとづきながら、輪読とディスカッションを行い、理解を深めていきます。輪読の作業は主にグループワークで行います。

ゼミの核（コア）は、学生同士のディスカッションです。 基本的な事柄ではありますが、「自分が伝えたいことを他者にきちんと伝えられるようになること」を目指します。学生同士の議論がゼミの中心を成します。

3年生の後期は、社会調査の演習を行います。本ゼミでは、「アンケートを自分で作成し、データを取り、それに対してエクセルなどで分析を行い、口頭報告する」という技術の習得を目標としています。加えて、3年の12月には卒業論文の中間レポートを提出してもらいます。

4年生の目標は、卒業論文の執筆と社会福祉士国家試験に向けた準備です。本ゼミではできるだけ卒業論文を夏までに提出することを目標としています。その後は、国家試験等に集中していくという形をとります。

以上2年間を通しての達成目標は以下の3つです。1. 家族など、さまざまな社会現象を社会学的な視点で見ていく力の獲得、2. アンケートを用いた調査方法とデータをまとめる技術の習得、3. 根拠にもとづきながら、論理的に話ができる力の獲得、です。この3つをしっかりと身につけることができるかは、みなさん1人1人の「意識の持ち方」次第です。ゼミ活動に真剣に取り組む学生をお待ちしております。

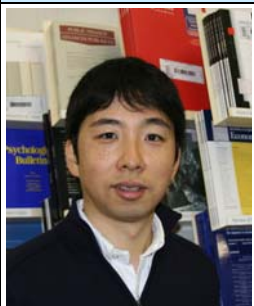
### 【備考】

本ゼミでは、社会学のテキストをもとにした課題を定期的に出します（『社会学ノート』の作成）。

卒業論文の作成の際、何らかの社会調査（量的・質的どちらでも可）を行うことを条件としています。

将来、大学院に行きたいと考えている学生、公務員福祉職を志望する学生も歓迎します。

## 担当教員からのメッセージ



「自分を鍛える」という感覚を程よく持ちながら、ゼミでの2年間を過ごして欲しいと思います。

皆さんと共に歩みながら、楽しく学ぶことをモットーに、お互いに成長したいと思います。やるべきことはしっかりやりつつ、どこかほっとできるような、そのようなゼミを目指したいと思います。